

## ウクライナ市民への人道支援 「ひまわり募金」終了のお知らせ

ウクライナ市民への人道支援のための「ひまわり募金」は、2022年12月末をもって終了することをお知らせします。ご協力ありがとうございました。

日本原水協は、2月24日のロシアによるウクライナ侵攻直後から、ウクライナ市民への人道支援を目的に募金活動を開始しました。

その際、募金は戦争で苦しむ市民を支援するための非軍事的な物資の支援に限定すること、募金の使途が募金者の目に見えるようにすることを方針にしました。募金の送り先については、ウクライナからの避難民が押し寄せていた隣国のうち、日本原水協と長年協力関係にあるリトアニアのゲディミナス・リムデイカ医師（チェルノブイリ被害者支援に従事）と相談し、リムデイカ氏が会長をつとめたこともあるトラカイ・ロータリークラブ（トラカイは首都ビリニュス近郊の自治体）と協力して、同市周辺に避難し滞在しているウクライナの特に女性と子どもたちへの支援をおこなうことにしました。

ウクライナ支援募金は「ひまわり募金」と名付けて広く協力をよびかけた結果、12月23日までに810万702円が集められました。これまでに2回にわたり、計377万5600円（2万7378ユーロ）をリトアニアのトラカイ・ロータリークラブに送金しました。

現地では、子どもたちの学用品（文具、タブレットなど）、おもちゃ、衣類などのほか、紙おむつなどの衛生用品、食料援助のためのクーポン購入、障害児への支援などにあてられ、避難中のウクライナ市民からとても感謝されました。その時々への支援物資贈呈の報告は写真とともに届けられ、「ひまわり募金推進ニュース」（<http://www.antiatom.org/Gpress/?p=19727>）や、原水協 On the Web でのオンラインニュースを通じて伝えました。トラカイ自治体と市長、そしてトラカイ・ロータリークラブからは、感謝状が届いています。ウクライナの子どもたちが感謝を込めて描いた絵も届けられました。

リトアニアに避難しているウクライナ市民の多くが帰国している状況もあり、「ひまわり募金」の残額については、同じく避難民を受け入れている他の国のNGOとの協力で送り先を検討し、ラトビア国内のウクライナ市民の支援に利用できるよう、ラトビア赤十字委員会と相談をすすめています。

募金活動にとりくんでいただいた都道府県原水協、中央諸団体、個人の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

2022年12月27日 原水爆禁止日本協議会